

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

—「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりを通して（2年次）—

I 研究の内容

1 児童の教科及び学習習慣の状況把握と改善すべき課題の整理

- (1) 平成 26・27 年度 NRT 検査結果分析（全学年）と課題の明確化
- (2) Q-U 検査（全学年）K13 法による分析・アタックシートの作成・活用の充実
- (3) 平成 27 年度山梨県学力把握調査（3・5 年）及び全国学力学習状況調査（6 年）結果の分析・課題解決のために必要な取組の検討・実施

2 学習会

(1) テーマに関わる理論学習会

「算数科における児童の実態に基づく授業改善について～「数量関係」「量と測定」領域の系統性を生かした授業づくりについて～」

義務教育課指導主事 富士池 慎一先生

(2) 本校教諭による学習会

ア「デジタル教科書利用学習会」 前島 国学教諭

イ「面積図を使った指導に関する学習会」中村 裕司教諭

(3) 特別支援教育学習会

「学級の中で支援を必要とする児童の見取りと支援の方法」

山梨県総合教育センター 相談支援部部長 石田 浩一先生

3 「わかる」「できる」を実感できる手立てを取り入れた授業実践

(1) 研究授業

第 5 学年授業「単位量あたりの大きさ～比べ方を考えよう（1）～」梶原美奈子教諭
指導助言 峡東教育事務所主幹・指導主事 柴田 幸也先生

(2) 授業実践

第 1 学年授業実践 「たしざん」 (領域 D) 広瀬 美穂教諭

第 2 学年授業実践 「かけ算（1）」 (領域 D) 古屋みゆき教諭

第 3 学年授業実践 「かけ算の筆算（1）」 (領域 A) 前島 国学教諭

第 4 学年授業実践 「考える力をのぼそう」 (領域 D) 堀井ますみ教諭

- 第6学年授業実践 「比と比の値」 (領域D) 山縣 重人教諭
つくし学級授業実践 「かけ算の筆算のしかたを考えよう」 (領域A) 植原 恵子教諭
あおば学級授業実践 「分数と小数整数の関係を調べよう」 (領域A) 中村亜矢子教諭
すみれ学級授業実践 「かけ算の筆算のしかたを考えよう」 (領域A) 相川 和彦教諭

II 成果と課題

「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりに取り組むことは、児童の学習意欲や学力の向上につながった。Q-U検査の結果からは、児童の学習意欲の数値が全国平均を上回り、ほとんどの学級において2回目の結果の方がより高い数値を示した。また、毎年行っている「学校生活アンケート」の結果、「先生は授業でわかるまで教えてくれますか」の問いに対する「とてもそう思う」の回答が前年度よりも36ポイント、「一生懸命授業に取り組んでいますか」の問いに対する「とてもそう思う」の回答が12ポイント増えていることから、研究が児童の学習意欲の喚起につながっていることが検証できた。学力については、算数科の単元末テストの結果、全学年が全国平均の到達度を超え、学校全体の到達率が86の数値を示していることから、学力の向上につながったといえる。昨年の研究成果に2年次として実績を積み重ねることができた。

各種調査結果の分析を踏まえ「領域」を意識し、「わかる」「できる」を実感できる手立てを取り入れた研究授業・授業実践は、教師としての力量を高めることにもつながった。学年を超えて、具体的な手立てを共有できたことが特に有益であった。甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの学習会を含め、各種学習会では、日々の実践につなげようという意識を高くもち、学びを深めることができた。

今後の課題としては、学習の基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指した取組の検討、系統性を生かした指導方法の整理、模擬授業を通じた教材研究の実施等が挙げられる。本校の児童の実態に基づくテーマ設定と研究成果の共有化を図ることで、同一歩調で指導にあたり、「確かな学力」を育む学習指導についてさらに研究を深めていきたい。

III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業の指導案、使用した教具、ワークシート
- 2 「わかる」「できる」を実感できる算数科授業づくりの手立て

(研究主任 堀井 ますみ)